



「白い宝石のはなし」

歯科の最新情報シリーズ

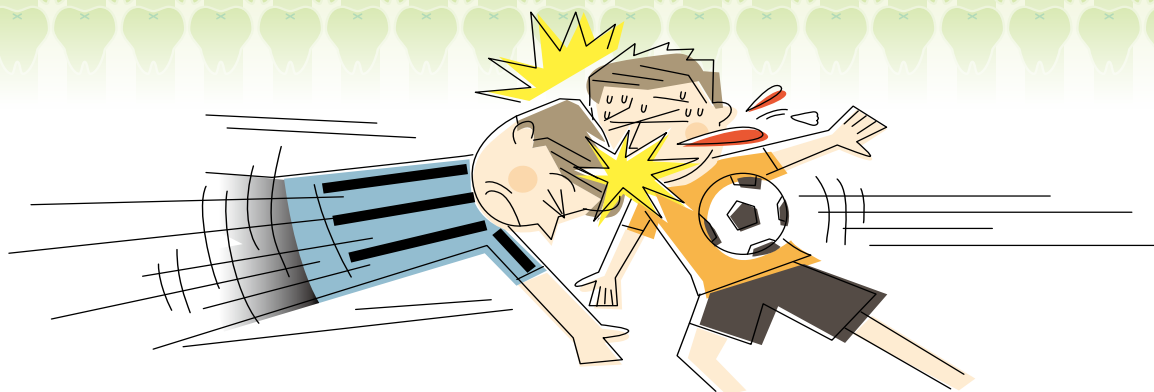
第7回

歯の外傷： ぶつけて歯が抜けてしまったときは！

加藤 元（日本アイ・ビー・エム健康保険組合 予防歯科）

子どもが転んで歯をぶつけ、歯が抜けてしまった。スポーツの最中に相手の頭がぶつかって歯がぐらぐらになってしまった、そのようなアクシデントはよく起こりうることです。

今回は、外傷で歯が動揺したり、抜けてしまったりした場合の対処法と、外傷を防ぐマウスガードについてお伝えします。



●歯の外傷とは

転倒や転落、交通事故、けんかやスポーツなどで顔面部、歯に強い外力が加わることで、歯が欠ける、割れる、ぐらぐらする、横や奥にずれる、抜けるといった状態になることを、歯の外傷と呼びます。歯の外傷を受けると、しばらくして歯の色が黒ずんできくこともあります。

歯科医師による速やかな治療が重要ですが、歯ぐき、粘膜の裂傷や歯を支える骨の骨折を伴っているときは口腔外科専門の歯科医師へ、頭部や目、顎顔面等へのけがの程度や全身状態への影響が疑われる場合には、医師による緊急処置を優先させます。

歯が欠ける、割れるについては春号で触れましたので、今回は、ぐらぐらする、ずれた、抜けた、そして色が変わった、について対処法を含め解説します。

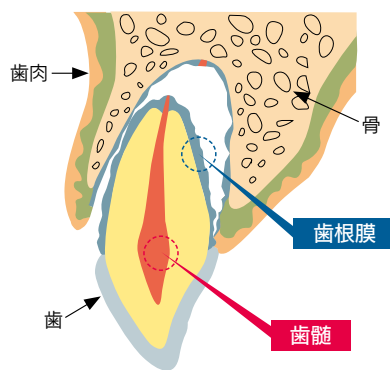
●歯がぐらぐらする、ずれた

歯の位置は変わらずぐらぐら動くことを亜脱臼、上下前後に歯がずれた状態を脱臼といいます。亜脱臼では、安静に保てば回復するケースが大半です。しかし、位置がずれた場合にはもとの位置にもどし、両隣の歯とワイヤーや接着剤を使って固定して安定をはかり経過をみます。

受傷後すぐに歯の色が赤みをおびた色に変わることがありますが、これは歯髄（歯の中にある神経や血管）の中の血管が損傷して充血したためで、自然に歯の

色が回復する場合がほとんどです。しかし、しばらくして歯の変色が始まった場合は、歯の根の先で歯の神経や血管が断裂し、歯髄が壊死してしまっているため、歯髄を除去する根管治療を行う必要があります。その後、歯の変色が強い場合には、漂白や白いかぶせものをすることもあります。

図 脱臼した歯



●歯が抜けた

歯が抜けた（完全脱臼）場合は、条件がよければ抜けた歯をもとの位置にもどすことができます。脱落してしまった歯の歯根表面にある歯根膜を触ったり洗ったりせずに、歯の保存液または冷たい牛乳につけ、できるだけ敏速に（30分以内だと成功率が高い）歯科医院を受診しましょう。どうしても何もない場合には本人の唾液に浸します。

麻酔しながらもとの位置に再植し、両

隣の歯と2週間ほど固定し、その間に歯髄を除去する根管治療を実施します。その後は定期的に予後を観察し、歯根が吸収したり骨と癒着したりしていないか確認していきます。

●スポーツによる外傷の予防対策 マウスガード

日常生活の外傷は対策が難しいのですが、スポーツでは予防対策が確立されています。

マウスピースの着用がルールで義務付けられているのは、アメリカンフットボールやラグビー、ボクシング、キックボクシング、総合格闘技などですが、色も細かく指定されています。また、野球やサッカー、バスケットボールなど様々なスポーツでも外傷のリスクはあり、自主的にマウスガードをつける人が増えてきました。

スポーツ用品店で購入し自分で形作るタイプもありますが、歯科医院で口にピッタリあうように歯型とかみ合わせをとってオーダーメイドで作るタイプのほうがお勧めです。マウスガードで噛み合わせが安定しスポーツパフォーマンスを維持・向上させることもあり、色や形など相談しながら作成しましょう。



アメリカンフットボール選手が使用しているマウスガード